これまでの取り組み経緯について

平成 31 年 2 月 27 日

札幌開発建設部 江別河川事務所

ワークショップの設立・自然再生実施計画書の策定(H26~継続中)

- I 平成26年度に「石狩川下流幌向地区自然再生ワークショップ」を設立し、これまで6回のワークショップを開催。
- Ⅰ 第 2 回ワークショップ(H26.3.24)では「石狩川下 流幌向地区自然再生実施計画書」を策定。

幌向地区における自然再生の目標

- ~ ボッグを中心とした湿原環境の再生 ~ 湿原環境の形成
- ~ 地域社会への貢献 ~ 地域社会の学びの場の形成
 - ●自然を育む場を形成し、人が自然と歴史を 学ぶ。

自然と共生する地域社会の形成

●自然の価値をふるさとの資源として共有・
活用する。

石狩川下流幌向地区自然再生実施計画書

ほろむい原野の原風景をめざして















平成26年3月 石狩川下流幌向地区自然再生ワークショップ

ワークショップ



幌向再生フォーラム (H28)





現地視察会(H26~継続開催)

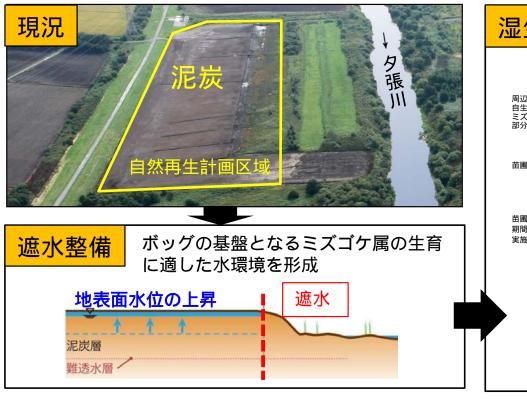


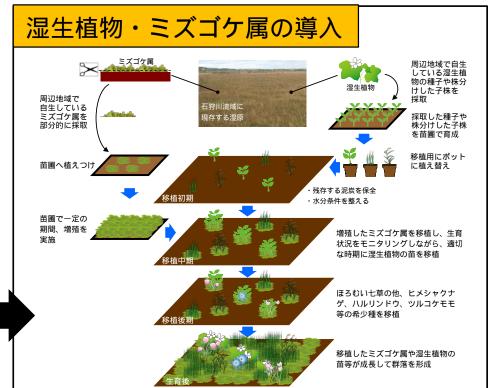




幌向自然再生の実施手順

幌向地区自然再生は、泥炭層が露出して分布している夕張川高水敷を対象とし、自然再生の目標である『ボッグを中心とした湿原環境の再生』を図るため、泥炭層露出箇所に遮水整備を行い、ボッグの基盤となる水環境を形成したうえで、湿生植物・ミズゴケ属の導入を行うものである。





ボッグが定着しやすい物理環境の整備(遮水盛土整備:H28)

- 正遮水整備前の夕張川高水敷に残っている泥炭は、段差部分から水分のしみ出しが見られ、泥炭 表面の乾燥・分解が進行していた。
- I 試験施工を踏まえ、平成28年度に段差部分に遮水盛土本施工を実施。

遮水盛土施工後





湿生植物の導入・ミズゴケの育成(H29~継続中)

I 遮水盛土整備を行った段差上段に植生導入エリア(重点区域と一般区域)を設定し、湿生植物の導入を開始した。













地域連携活動の推進(H26~継続中)

I 幌向再生の取り組みの情報発信、PRのため、幌向湿原フォーラム、地域イベントの企画・参加を進めている。













湿生植物の導入・ミズゴケの育成(H29~継続中)

日時に、幌向再生地に導入するための湿生植物、ミズゴケ属を確保するため、種苗採取、育苗・増殖方法の調査試験を開始した。













2.今後の予定

- 1 当面、河川管理者が主体となって、基盤整備、植生導入、モニタリング調査を継続する。
- I 同時に情報発信、人材発掘を継続し、将来的には地域主体の取り組みに発展させる。

事業スケジュール

	H27	H 28	H 29	H30	H 31	H 32	H33	H 34	H 35	H 36	H 37 ~
基盤等整備											
	遮水工・高水敷整正 (河川管理者)										
植生導入											
					植生導入 (河川管理者~地域連携)						地域主体による 取り組み
モニタリング等											
	水文・水質、植生調査、評価 (河川管理者)								水辺の国勢調査等による 定期的な状況確認 (河川管理者)		
											<u> </u>